



球磨村：多目的広場仮設団地

ともに、

前へ。

令和2年7月豪雨から1年 誰一人取り残さない

多くの尊い命を奪い、球磨川流域を中心に未曾有の被害をもたらした、令和二年七月豪雨から一年が経ちました。今なお、あの日目の当たりにした被災地の惨状が、私のまぶたの裏に焼き付いて離れません。

ここに改めて、この度の豪雨災害の犠牲になられた方々、被害を受けられたすべての皆様に、お悔みとお見舞いを申し上げます。

被災された地域では、住民の方々をはじめ関係者の懸命なご努力により、住まいや生業の再建が進みつつあります。その一方で被災地域のまちづくりや集落再生など、解決すべき課題も残されています。

私は、被災された方々を誰一人取り残さないという強い決意の下、お一人お一人の意向に寄り添いながら、本格的な復旧・復興の取組みを今後一層推進して参ります。

そして、あの日決意した二度とこのような被害を繰り返してはならないという思いを胸に、流域住民の方々の願いである「命と清流をともに守る『緑の流域治水』」を全力で進めて参ります。



令和三年七月四日
熊本県知事 蒲島 郁夫

「令和2年7月豪雨からの復旧・復興の進捗状況」をご覧になりたい方はこちら

